

＜平成26年度木材利用推進「全国会議」 — 木材利用の街づくり推進 — の概要＞

日時：平成26年7月30日（水）13時から17時30分
場所：木材会館 7階ホール 東京都江東区新木場 1-18-8



(木材利用推進中央シンポジウム)

1 公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み

(1) 国の施策・取組み

① 木材利用の推進について

林野庁 木材利用課 阿部 勲 課長

② 公共建築物における木材活用の推進について

国土交通省 官庁営繕部 木材利用推進室 内田 純夫 室長

③ 木材を利用した学校施設づくり促進の取組

文部科学省 文教施設企画部施設助成課 木村 哲治 課長補佐

2 都市部における木材利用推進の取組み

① 都市の大型建築への木材利用～事例・木の魅力、新たな課題～

株式会社竹中工務店先進構造エンジニアリング部 五十嵐 信哉 氏

要旨：耐火集成材「燃エンウッド」を用いて建設した大阪木材会館やサウスウッドの事例と、来年5月に竣工する横浜商科大学高等学校実習棟について紹介するとともに、こうした大型建築物が増えていることを報告。今後の課題として2時間耐火の大臣認定の取得や部材の規格化によるコストダウンを掲げた。

② 木材の地産外消への取組み

越井木材工業株式会社技術開発室 山口 秋生 氏

要旨：越井木材工業独自の保存処理をした「サーモウッド」を都市ビルの外装材として用いた事例を紹介しながら、都市ビルの外装材としてこうした木材を用いれば、ヒートアイランド対策や省エネ対策になるとデータに基づいて解説し、大阪市中央区の本町地区の既存の建物の47%を木材で被覆すると1970年代の夜間外気温に回帰できるというシミュレーションモデルを示した。

推進活動宣言

3 講演

演題 高層、超高層ビル等への木材利用拡大に向けて
～国産木材活用に向けたビジョンとロードマップ～

講師 福岡大学工学部教授 稲田 達夫 氏

要旨：高層、超高層ビル等への木材利用を進めるためには、床への木材利用を考えることが最も現実的。床材への利用を図るだけでも、1,000 m²以上の需要が創出される可能性がある。コンクリートとのコスト差は大きくみられるが、生産体制の整備や事業者のCO₂排出抑制や炭素固定、森林資源活用の社会貢献度を評価し、貢献度に見合ったインセンティブを与え容積率を緩和するなどの政策が実施されれば克服できると説明。また高層、超高層ビルに木材を用いれば建物の躯体重量が大幅に小さくなり、耐震性等でのメリットも大きい。

(今回のシンポジウムは、「緑と水の森林ファンド」の助成を受けています。)